令和元年１１月　定例記者会見（報告）

１　日　時　令和元年１１月２９日（金）午後１時～午後１時３０分

２　会　場　市長応接室

３　出席者
＜報道機関＞朝日新聞、山形新聞、米澤新聞社、読売新聞、毎日新聞、河北新報、ＮＨＫ

＜市＞　　市長、秘書広報課長、担当者

４　内　容
〇秘書広報課長
それでは、定刻となりましたので、令和元年１１月の定例記者会見を始めさせていただきます。今回の記者会見では、選挙が終わった直後ということもあり、事前に質問は頂戴しておりません。懇談形式ということでよろしくお願いしたいと思います。
〇市長
よろしくお願いします。
〇幹事社
選挙が終わって、ほっとしましたか。
〇市長
次の日から公務が入っておりまして、ほっとしている余裕がないのが現状です。選挙が終わって、残った課題というものもあったのかなと思います。もう終わったので、走っていかなければならないです。
〇記者
課題とは具体的になんでしょうか。
〇市長
まだ、はっきり申し上げられません。
〇記者
課題をこれから具体化していくのですか。
〇市長
はい。
〇幹事社
真っ先に着手していきたいと言っていたのは子育て支援ですよね。
〇市長
そうです。病院関係は継続的に取り組んでいきますが、高校三年生までの医療費の

無償化については、早ければ来年度からできるのか、またはできないのか、財政的な課題もあり、まだ分かりませんが取り組んでいきたいです。新年度の予算が内部から始まって、年が明ければ市長査定となりますので、その中でどうできるのかということになります。
〇幹事社
　屋内遊戯施設についてはいつ頃から着手するのですか。
〇市長
　どのような形で行うのかについては、検討しなければならないと思っております。
〇記者
　委員会などを作るのですか。
〇市長
　委員会といいますか、場所も含めて、まずは内部で調整してからになります。
〇記者
　それなりの広さが必要ですよね。
〇市長
　屋内だけでなく屋外もというように、いろいろな要望があります。ですから、親子が一緒に屋内、屋外で遊ぶことができるよう総合的にどうできるのかということになります。
〇記者
　市長のイメージはひとつ大きいものを作るのか、木育広場オープンの時に議長が意味深な「各地区東西南北に同様のものがあると良い」というものもありましたが。
〇市長
　木育広場を作り、多くの利用者があるようですが、今回の屋内遊戯施設については一定程度の大きさが必要だと思っております。いろいろな施設も含めて、廃校になる学校が増えてきます。その活用方法をどうしていくのか、ということになってくると、地域に点在している方が利用しやすいですよね。しかし、公共施設等総合管理計画もありますので、公共施設の延床面積を今年２０年間で２０％減らさなければならないという使命もあります。仮に点在する場合でも、どのように運営していけば良いのかは検討課題です。
〇記者
　高畠の施設はご覧になりましたか。
〇市長
　まだ見ておりません。
〇記者
　ご覧になれば、比較するときにイメージしていただけるのかなと思います。
〇市長
　どこと比較すれば良いのかということですが、米沢は米沢の施設ということで良いと思います。例えば、南原中学校の利活用もどうするかということもありますから、

方向性をしっかりと決めなければなりません。
〇記者
　高校三年生までの医療費無償化や屋内遊戯施設も含めて、選挙となると「お金を使うこと」について話が出やすいと思いますが、逆にしぼっていくところで、これからやらなければならないものはなんでしょうか。
〇市長
　歳出は増えていくばかりですが、今あるものを減らしてくということについては、住民の皆さんの理解が必要ですから、一番は入ってくるものを増やしていく、ということがこれからの課題なのかなと思います。今のところは財政的に収入も順調なようですが、いつまでもそうとは限りません。
　今後、期待している税収は企業誘致に係る固定資産税です。また、事業を進めていく訳ですが、今年から定住自立圏構想もスタートしました。中心市に配分された８，５００万円をどのような事業に振り分けできるのかということもありますが、歳入を確保し、市民の皆さんのご理解を得ながら、スクラップ＆ビルドを行い、常に行財政改革を心がけていかなければならないと考えております。
〇記者
　ということは、出を減らすというよりも入りを増やすということに、力を入れていきたいということですか。
〇市長
　これからの米沢市が目指す目標の中で、一つの大きな理念としてブランド戦略があります。ブランド戦略というのは簡単に言うと、付加価値を高めていくことですから、当然、それは入りにつながってこないと意味がない訳ですよね。そういった面では、ブランド戦略を加速させていく必要があります。それによって多少なりとも、入りが増えていけばいいなと思います。そのための戦略であるというのは、間違いありません。
〇記者
　昨日、長井市長が会見されて、米沢市の中高一貫校について期待とも取れる話があったのですが、中高一貫校についてはどのようにお考えですか。
〇市長
　県の教育長が高校再編の話をするためにおいでいただいた時にも、申し上げていることではありますが、米沢市は今年、重要事業に中高一貫校を挙げさせていただきました。ただ、県が想定しているものがはっきり出てきていない訳です。最終的に置賜に高校は３校という考え方でしょうから、Ａ案、Ｂ案出しておりますが、県の最終的な判断はＢ案だと思っております。東南二市二町には３校というものです。
　基本的には米沢二校、高畠南陽で一校とならざるを得ないのではないかと想定はしております。中高一貫校となった場合に、その二校のうち、どことどうやるのかということもあります。長井市長が期待をされているということですと、一番の問題は、単に米沢だけの中高一貫校という位置づけでは良くないと思っています。置賜一円の

子どもたちが中高一貫校を目指すということになると、やはり交通の便が良いところにならざるを得ません。そうした場合に、今後どのように、県の再編と絡めて、これはもう少ししっかりと県の考えとすり合わせをしながら、行っていきたいと思います。米沢の高校が郊外に行ってしまったという経過もあるものですから、どこの高校がということではありませんが、それで良いのかという問題は県に提起しています。

〇記者

当時、興譲館や米工を移設する時に市民の検討委員会を立ち上げたと思うのですが、今後についても、早めに市民の検討委員会を立ち上げることが必要だと思います。

〇市長

それについてですが、A案にするのかB案にするのか県がまだ決めておらず、中高一貫校についてはまだ時間がかかるようです。ようやく東根市が終わって、今は鶴岡市でありますので、それが終わってからですよということは、県の教育長から話をされました。早くてもあと６、７年はかかるのかなと思っております。

教育長による高校再編の説明の時には、とりあえず、村山と庄内に作って、その先のことは県の教育長としては具体的なものは持っていないとのことでした。ですから、A案なのかB案なのか決まり次第、それと同時に対応していかなければなりません。今から先行して行うと、マイナスの部分も出てくると思います。

〇記者

興譲館建設のときには、相当な引っ張り合いがあったようですが。

〇市長

私の記憶では、興譲館が現在のところに建っている大きな理由というのは、全寮制にするという最初の方向性があり、交通の便も問題ないだろうということがあったからです。ところが、全寮制に対する親からの反対があって、全寮制はなくなったという経緯があるようです。

〇幹事社

インターチェンジ周辺の土地利用についてはどうお考えですか。

〇市長

中央、北、八幡原インターチェンジ全部に関わることですが、八幡原の土地や団地の分譲も話を進めているところもありますので、そうなった場合、新たな工業団地をどうするのかという議会からの指摘もありました。

八幡原インターチェンジ周辺、団地の入り口辺りが残っていますので、そこは考えていかなくてはなりません。また、中央インターチェンジについては、道の駅米沢を多くの方にご利用いただいているということですが、駐車場が狭くなっているという状況があるようです。トラック協会からは「トラックを停めていると迷惑がかかる気がする」という話も聞きました。それをどうしていくのかということもありますが、いずれ、北インターチェンジで国道２８７号線が開通しますと、置賜、あとは会津圏など、市外からの交通の要所になってくると思っております。すべて農振がかかっていますので、これからの土地利用については早急に方向性は出していかなければなら

ないなと思っております。
○記者
　北インターチェンジについては昔から話があったと思うのですが。
○市長
　前からありました。もっと遡ると髙橋市長の頃からあったのではないでしょうか。あくまでも私の記憶ですが、物流団地のような、卸売関連の機能的なものを作るという構想もあったようです。
○記者
　市長の選挙のビラの中にショッピングセンターが描かれていましたね。
○市長
　あれはイメージとして描いたものです。
○記者
　市長の中でさらに具体的なイメージはあるのでしょうか。
○市長
　いえ。まだありません。ただ、昨年、鷹山公入部２５０周年のプレイベントで林修先生の講演会を行ったとき、ＪＣを中心に来訪者を対象としたアンケートをとりました。ウコギを見立てた「元気の出る垣根」というもので、葉っぱに「米沢にあれば良いもの」を書いていただきました。それを集計した結果、一番多かったのが「友達や家族と楽しくショッピングできる施設が欲しい」というものでした。そして、二番目が「屋内遊戯施設が欲しい」とのことでしたので、これらをイメージしています。
○記者
　すべてを行うのは４年間ではなかなか難しいですね。
○市長
　病院もそうですが、４年間ではできません。
○記者
　８年でも難しいのではないですか。
○市長
　病院はなんとか８年の中で、出来上がる予定にはなっています。簡単に言えば、建設さえ始まっていけば、後はなんとかなっていくと思います。
○記者
　市長は完成を見なくても良いのですか。
○市長
　何年も市長をしなくてはいけないので。二期８年の中でということは言ってきましたから、方向性が見えれば私の役割は終わったなと思います。病院だけは三友堂との医療連携、山大との関わりもあり、中川が作ったものなのでこれはある程度ちゃんとしていかないとと思います。建設が始まり、山大医学部と連携して医師の確保をしっかりすれば、私の役割は終わりかなと思います。

○記者
　これからの４年間の中では、医療連携が一番大きいですか。
○市長
　選挙戦でも言ってきましたが、病院の建て替えは行政が市民に約束してきたものです。市長が誰になっても、約束したものはしっかりと実行していかなければならないという想いは持っていました。責任を持って取り組まなければ、相手方にも失礼です。
○記者
　繰り返しになりますが、新しい公約の部分で最初に手を付けるのはどの部分ですか。
○市長
　具体的に目に見えるものとしては、高校三年生までの医療費の無償化です。
○記者
　新年度あたりにやりたいということですか。
○市長
　一期４年の中でという悠長なことを言っている訳にもいきませんが、今後、全体を見ながらになります。ただ、課題もたくさんあります。また、ようやく天元台のロープウェイも復旧しましたので、これから冬の出費が出ないようにと思っております。
　財政が健全な方向になってきましたが、これで安心できる状況ではありません。しかし、安心できる状況ではないからといって、やらないということではなく、新年度どのような状況なのか、予算編成もこれからになってきますし、しっかりと見ながら進めていきたいと考えております。
　高校三年生までの医療費の無償化については、早ければ来年度から始めるという可能性は十分にあります。
○記者
　来年はオリンピックがありますが、大変な状況にあります香港との情報のやり取りは行っていますか。
○市長
　政治レベルですので、香港のオリンピック参加についてはまったく変わらないと思います。オリンピックはオリンピックで子どもたちの交流も進めていきたいですが、その点で影響がないのかということは心配です。
○記者
　少し飛躍しますが、中曽根元首相が亡くなられたという速報がありました。個人的な接点などはありましたか。
○市長
　遠藤武彦さんが中曽根派だったものですから、二回ほどお会いしたことがあります。政治家として重みのある方だったなと思います。国会議員を辞められてからも世界的な政治家として活躍なされたので、歴代の総理大臣の中で、あれほど国際的にも影響があった方はそういないのではないかと思います。それだけ存在感のあった方だったのだなと思っております。１０１歳ということで、天寿を全うされたのだと思います。

ご冥福をお祈りいたします。
〇幹事社
　他に質問などある方いらっしゃいますでしょうか。
〇秘書広報課長
　無いようですので、令和元年１１月の定例記者会見を終了いたします。